

王さまと靴屋

新美南吉

青空文庫

ある日、王さまはこじきのようなようすをして、ひとりで町へやってゆきました。

町には小さな靴屋くつやがいつけんあつて、おじいさんがせつせと靴くつをつくつておりました。

王さまは靴屋くつやの店にはいつて、

「これこれ、じいや、そのほうはなんとという名まえか。」
とたずねました。

靴屋くつやのじいさんは、そのかたが王さまであるとは知りませんでしたので、

「ひとにものをきくなら、もつとていねいにいうものだよ。」

と、つつけんどんにいつて、とんとんと仕事をしていました。

「これ、名まえはなんと申すぞ。」

とまた王さまはたずねました。

「ひとにくちをきくには、もつとていねいというものだというのに。」

とじいさんはまた、ぶつきらぼうにいつて、仕事をしつづけました。

王さまは、なるほどじぶんがまちがっていた、と思つて、こんどはやさしく、

「おまえの名まえを覚えておくれ。」

とたのみました。

「わしの名まえは、マギステルだ。」

とじいさんは、やっと名まえを教ええました。

そこで王さまは、

「マギステルのじいさん、ないしよのはなしだが、おまえはこの国の王さまはばかやろうだとおもわないか。」

とたずねました。

「おもわないよ。」

とマギステルじいさんはこたえました。

「それでは、こゆびのさきほどばかりとはおもわないか。」

と王さまはまたたずねました。

「おもわないよ。」

とマギステルじいさんはこたえて、靴くつのかかとをうちつけました。

「もしおまえが、王さまはこゆびのさきほどばかだといったら、わしはこれをやるよ。だれもほかにきいてやしないから、だいじようぶだよ。」

と王さまは、金の時計をポケットから出して、じいさんのひざにのせました。

「この国の王さまがばかだといえはこれをくれるのかい。」

とじいさんは、金づちをもった手をわきにたれて、ひざの上の時計をみました。

「うん、小さい声で、ほんのひとくちいえばあげるよ。」

と王さまは手をもみあわせながらいいました。

するとじいさんは、やにわにその時計をひつつかんで床ゆかのうえにたたきつけました。

「さつさと出てうせろ。ぐずぐずしてるとぶちころしてしまうぞ。
不忠者ふちゆうものめが。この国の王さまほどごりっぱなおかたが、世界中にまたとあるかッ。」

そして、もつていた金づちをふりあげました。

王さまは靴屋くつやの店からとびだしました。とびだすとき、ひおいの棒ぼうにごつんと頭をぶつけて、大きなこぶをつくりました。

けれど王さまは、こころを花のようにあかるくして、

「わしの人民じんみんはよい人民だ。わしの人民はよい人民だ。」

とくりかえしながら、宮きゆうでん殿のほうへかえってゆきました。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね 新美南吉童話作品集」てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：「校定 新美南吉全集」大日本図書

入力：めいこ

校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

王さまと靴屋

新美南吉

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>